仙台市　ココロン・ニュース 号外　2015年9月発行

ココロン・カフェレポート　ボリュームスリー

○ココロン・カフェとは

仙台市では、「共生する社会」を実現するために、障害を理由とする差別の解消を推進するための条例の制定について、検討しています。条例の検討にあたっては、障害のある当事者のかたの意見を伺うとともに、市民の関心を高め、幅広く理解を得ながら進めていくことが大切だと考えています。

そこで、障害の有無にかかわらず広く市民が参加し、お互いに理解を深め、意見交換ができる場としてワークショップ「障害のある人もない人も暮らしやすいまちづくりを考えるカフェ（愛称：ココロン・カフェ）」を平成26年10月から開催しています。このレポートでは、平成27年4月から8月までに実施したココロン・カフェの開催状況やいただいたご意見をお伝えします。

○平成27年度開催状況

平成27年度は4月から8月までに8回開催しました。日程については、平日に仕事等で都合がつかない人も参加できるよう、同じテーマで土日にも開催しました。また、様々な場所で開催してほしいという声にこたえ、地下鉄沿線等の交通の便を配慮しながら、各区でも実施し、より多くのかたに参加していただけるよう工夫しました。

第1回から第12回までのココロン・カフェ参加者数は、のべ643人になりました。

平成27年度4月から8月までの開催状況の表

回、開催日、開催場所、参加人数、話し合いのテーマの順に記載

第5回、4月19日（日曜）、仙台市役所本庁舎8階ホール、42名、条例の理念について考えよう

第6回、4月22日（水曜）、仙台市福祉プラザ1階プラザホール、75名、条例の理念について考えよう

第7回、6月10日（水曜）、仙台市職員研修所2階大研修しつ、43名、差別解消のためのアイディアを出し合おう

第8回、6月13日（土曜）、仙台市役所本庁舎8階ホール、55名、差別解消のためのアイディアを出し合おう

第9回、7月6日（月曜） 仙台市福祉プラザ1階プラザホール、72名、差別に関する相談について考えよう

第10回 、7月18日（土曜）、仙台市立病院3階講堂 、61名、差別に関する相談について考えよう

第11回 、8月7日（金曜）、みやぎ野区役所6階ホール、24名、条例の名前を考えよう

第12回 、8月9日（日曜）、仙台市役所本庁舎8階ホール、39名、条例の名前を考えよう

○条例づくりとココロン・カフェ

（第10回での話し合いの様子の写真あり）

ココロン・カフェには、障害当事者や支援者をはじめ、大学生や町内会のかたなど様々な立場の人が参加しています。

少人数のグループに分かれ、お茶を飲みながらリラックスした雰囲気で自由に意見交換をおこなっています。

毎回、仙台市障害者施策推進協議会での検討状況を報告し、直近の協議会で議論された内容に関連したテーマでグループワークをおこなってきました。

そこで出た意見は、次の協議会に報告し、ココロン・カフェと協議会がキャッチボールをするような形で条例の検討を進めてきました。

また、条例に関する意見交換としての場だけでなく、出会いや障害についての理解を深める場としての役割などもみいだされてきています。

●グループワークでたくさんのご意見をいただきました！

○第5回、第6回

テーマ

「条例の理念について考えよう」

概要

グループワークの前半は、仙台の印象や好きなところ、嫌いなところについて意見を出し合い、後半は、前半で出た意見をもとに条例ができることによって仙台がどんなまちになるといいかについて意見交換をおこないました。

仙台ってどんなまち？についての意見

・仙台は、規模が大きすぎず、インフラも整っていて住みやすい。

・人の気質に関しては遠慮がちで相互に干渉しない人が多い印象。

・仲良くなり関係性ができると親切な人が多い。

・生活圏拡張運動の発祥の地であり、福祉団体の数も多く、福祉関係の素地がある。

注釈

生活圏拡張運動とは、1970年だいに障害当事者を中心とした市民が、障害があっても当たり前に地域社会で生活できるよう、街なかや公共施設のバリアフリー化を求めておこなった市民運動

条例ができることによってどんなまちになったらいい？についての意見

・違いに寛容なまち。

・無理解、無関心がなくなるまち。

・なんの気構えなく外に出られるようになるまち。

・障害のある人もない人も、同じように住めるまち。

・障害者自身が望んでいることを自分から発信できるまち。

・相手の立場になって考えることができる思いやりがあるまち。

まとめ

条例によって目指すべき社会像という観点から、条例に期待することをおはなしいただきました。条例を作って終わりではなく、それをきっかけに社会全体の理解が進み、障害によって分け隔てられることなく自分らしく生きられるまちになるといいという意見が多く挙がりました。

○第7回、第8回

テーマ

「差別解消のためのアイディアを出し合おう」

概要

差別解消のための具体的なアイディアや自分自身ができること、今後取り組んでいきたいことについて意見交換をおこないました。

（第8回での話し合いの様子の写真あり）

いただいた意見

・障害のある人が外に出て仕事をしたり、様々な活動に参加したりすること自体が障害の啓発や理解促進につながるのではないか。

・１たい１での相談も大事だが、ピアサポーターのような当事者グループの活動も大事である。

・障害のある人への対応は、慣れも必要なので、交流の場数を踏んでいくことが大事。

・実際に企業や店舗に研修して、理解してもらえたら、そのみせにシールを貼ってもらうといった取り組みをしてわどうか。

・自分たちも町内会単位でココロン・カフェをやってみたい。

・障害理解を推進するサポーター制度を作り、市民にPRするといい。

・ココロンのグッズを使ってPRしていってわどうか。

まとめ

障害理解促進につながる様々なアイディアが出されました。特に当事者自身の活動や障害のある人とない人の出会いの場の創出、地域への働きかけについての意見が多く挙がりました。また、ココロンを使ったPRなど普及・啓発についても様々な意見をいただきました。

○第9回、第10回

テーマ

「差別に関する相談について考えよう」

概要

もし自分が差別の当事者や関係者になったら、どんなところに相談するか、どんな相談支援があったらいいかについて意見交換をおこないました。

（第9回での話し合いの様子の写真あり）

いただいた意見

・どこに相談したらいいかわかりやすくしてほしい

・相談したことについてはきちんと解決まで導いてほしい。

・メールやファックスなどいろいろな媒体でいつでも相談できるといい。

・差別ひゃくとう番のようなわかりやすい窓口が必要。

・場所があっても環境的にバリアフリーじゃないと行けない。

・聴覚に障害がある場合、相談に行っても通訳がいないと断られてしまう。各分野の相談機関に手話通訳を置いてほしい。

・相談員には、相談者が真に求めるものを聞きだし、必要な機関にきちんとつなげてほしい。

・当事者同士が集まって自由に相談できる場所があるといい。

・地域の中に気軽に相談できる場があるといい。

まとめ

相談支援については、わかりやすい相談窓口、メールやファックスなど電話以外の媒体での相談、当事者同士で相談しあえる場など様々な意見が挙がり、一人ひとりの声を拾いあげ、きちんと解決まで導くためのきめ細かな体制づくりが必要であることがわかりました。

第11回、第12回

テーマ

「条例の名前を考えよう」

概要

グループワークの前半は、３つの例を用いて、名前から受ける印象や盛り込みたい言葉などについて意見を出し合いました。後半は、自分たちで条例に名前をつけるならどんな名前がいいか考えました。

いただいた意見

・差別はいけないということを伝えるには「禁止」を入れた方がいい。

・「障害」や「差別」という言葉が入ると、障害のある人が特別に守られている存在だと思われてしまうのではないか。

・いろいろ名前につめこんで長い名前になっても、熱い思いが伝わる名前になればいいのではないか。

・条例の目的や趣旨がはっきりわかる名前がいい。

・子どもにも親しみやすいよう愛称があるといい。

こんな名前が挙がりました！

・障害者差別禁止条例

・ココロン条例

・共に暮らしやすい社会づくり条例

・差別のないみんなで笑えるまちづくり条例

・やすらぎ絆を作る仙台市条例

・もりのまち ひとやさ条例　等

まとめ

各グループからいろいろなアイディアや願いの込められた名前が出されましたが、考え方として条例の趣旨が明確に示され、誰にでもわかりやすいものという点は共通していたようです。また、親しみやすい愛称があるといいという意見も多く出されました。

○ココロン・カフェ参加者の声

(障害理解促進キャラクター「ココロン」のイラストあり）

・支援者・学生・当事者のなまの声が聴けて良かったです。

・障害があってもなくても暮らしやすい仙台にしていきたい。

・条例ができたら「わがこと」として関わっていきたい。

・けんじょうしゃもたくさん参加してもらい、障害者に気軽に声をかけられるようになればいい。

・自分の意見や思いを吸い上げて、発表していただいたので嬉しかったです。

・条例を作る上でいろいろなかたから意見を集めるというのわとても良いことだと思います。

・日々の思いを思うままに伝えられ、話が充実していました。

・支援者も当事者も共に考えあえる場所・時間はとても大事だと思います。

・こういった機会は、もっと多くの人が参加できると障害者への理解も深まるのではと思いました。

○『条例のあり方について＜中間報告＞』をまとめています

現在、障害者施策推進協議会では、これまでの議論や、ココロン・カフェをはじめとする取り組みを通じて、市民の皆さんからいただいたご意見を集約し、仙台市における差別解消のための取り組みがどうあるべきかを示した『障害を理由とする差別の解消を推進するための条例のあり方について＜中間報告＞』をまとめています。

今後、これをもとに中間案をまとめ、市民の皆さんからのご意見を募集する予定です。

これまでのココロン・カフェでいただいた意見の例示

・障害者自身が障害について発信していくことが大切。

・どこに相談したらいいかわかりやすくすることが必要。

・条例施行後もココロン・カフェを継続してほしい。

・条例の名前は、条例の目的や趣旨がはっきりわかる名前がいい。

・東日本大震災の被災地としての経験を反映させるといい。

・対立ではなく一緒に考え、理解を深めていくことが大事。

○ひとやさばん！ココロン・カフェを開催しました

（意見交換の様子の写真あり）

8月3日に、ひとにやさしいまちづくり（ひとやさ）推進協議会の会員向け研修がおこなわれ、その中で障害による差別解消についての理解を深めるため、ココロン・カフェの形式を用いて意見交換をおこないました。

ひとにやさしいまちづくり推進協議会とは、施設を整備する事業者と施設を利用する市民が連携・協力し、バリアフリー整備を進めることを目的として設立された、民間有志による団体です。

ひとやさ推進協議会役員、会員と障害当事者19名が参加し、5から6名のグループに分かれ、差別事例や当事者の体験談をもとに話し合いました。

○今後のココロン・カフェ

第13回ココロン・カフェ

日時　10月13日（火曜）14時から16時

場所　仙台市急患センター5階研修しつ

ココロン・カフェスペシャル

日時　10月24日（土曜）13時30分から17時

場所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア

ココロン・カフェスペシャルでは、グループワークの前に条例の検討状況についての講演と、当事者や事業者等の取り組みから差別解消について考えるパネルディスカッションを実施します。

発行：仙台市健康福祉局障害企画課　（郵便番号　9 8 0 -（ノ） 8 6 7 1 仙台市青葉区こくぶんちょう3丁目7番1号）

電話：0 2 2 - 2 1 4 - 8 1 6 3 ファックス: 0 2 2 - 2 2 3 - 3 5 7 3 Eメール：f u k 0 0 5 3 3 0 @（アットマーク） c i t y .（ドット） s e n d エー i .（ドット） j p